



日本の国旗はいつできて、どうして日の丸なの

7世紀の天皇制がかたまつたころ

太陽を旗にしたのは、645年の大化の改新のあと天皇制がかたまっていくころです。しかし、この旗はあとあとまで、いくさがあったとき武将が味方を見失わないよう、自分のほうの旗を日の丸にするといった使い方をしており、国旗とは縁遠いものでした。日本は大むかしには日の本とよばれ、太陽をあがめる習慣がありました。それが、日の丸にも影響しているようです。

国旗の制定は1870年(明治3年)

国旗として日の丸が用いられるようになったのは、日本の船と外国の船の見分けをするために、幕府が安政元年(1854年)に法令で決めてからです。1860年に、初めて江戸とアメリカのサンフランシスコを往復した咸臨丸も、日の丸の旗をかかげました。その後、1870年(明治3年)になって、明治政府は日の丸を正式に日本の国旗と定めました。一般の家庭で国旗をかざるようになったのは、1873年(明治6年)の明治天皇の誕生日のときからです。(監修・保岡 孝之)

